

# 追浜あんず通信

Oppama Anzu Press

第10号 2015年10月 発行:特定非営利活動法人 アクションおっぱま

## 2015年度通常総会の報告

2015年度の通常総会は、6月11日(木)午後3時より、追浜行政センター会議室で開催されました(正会員43名中出席者36名(内委任状22名)で総会は成立)。2014年度事業報告書、同活動計算書、監査報告、続いて2015年度事業計画案、同活動予算案、役員案が審議され承認されました。2015年度の活動計画の主なものは、(1)マンション入居者(ルネ追浜)のコミュニティ醸成支援と地域連携支援、(2)空き家プロジェクト(関東学院大等と連携しながら追浜の空き家活用を図る)、(3)追浜の地域資源を活かすフィールドミュージアム構想の検討、となっています。なお、第三海堡の見学や「横須賀おっぱまワイン」の醸造販売支援、こみゆに亭カフェ等での地域活性化イベント等も継続して行います。ただ、財政状況は依

然として厳しいものがあり、収入増が課題です。

総会終了後はこみゆに亭カフェにて恒例の懇親会、今年は「横須賀おっぱまワイン」醸造開始10周年ということで、開発に携わった斉藤俊幸氏(正会員、イング総合計画(株))も多忙な中参加されました。

(NPO アクションおっぱま理事長 昌子住江)



## 大学生空き家プロジェクトII

あんず通信第9号を執筆させて頂いた際に進行中だった「追浜空き家プロジェクト」。無事に工事も工期内に終了し、4月の入居にも間に合った。着工前から行っていた「追浜の人たちと交流を深める」活動も随時行っており、これまでに『おっぱま祭り』でお神輿を担ぎ、追浜2丁目の『盆踊り大会』で運営のお手伝いをさせて頂いた。僕達の存在も随分と認知されるようになってきたのではないだろうか。

さて、1軒目の空き家リノベーションを終え、現在2軒目の空き家を改修予定である。既に物件も見つかり、現在プランを練っているところである。予定ではもっと「追浜の人達と関東学院大学の学生が繋がれるような仕組み」を具現化できるリノベーションにするつもりである。今後もっと追浜で空き家を利活用した面白い取り組みをしていきたいと思っている。

(関東学院大学四年生 近藤樹矢)



## ● 学生カフェ 「ここの」 訪問

追浜での空き家プロジェクト第一弾として学生のシェアハウスが完成し、順調に活用され、第二弾の計画も良心寺さんの協力により着手されています。

関東学院人間環境学部の協力 NPO であるアクション追浜も街づくりに積極的に関わるとともに支援、活動をしています。

その一つとして、8月24日(月)に学生2名理事3名で、国立市富士見台にある学生経営

のカフェ「ここの」を訪問しました。近隣の交通は南武線谷保駅より徒歩5分、近くを甲州街道が通り郊外のマンション、戸建て、アパートの立ち並ぶ平坦な住宅地域です。

メニューはワンプレートの日替わりランチを楽しみました。コーヒー他ソフトドリンクが中心で創業から経営の継続のポイント、システム他いろいろ参考になることが多い訪問でした。



カフェ「ここの」は一橋大の大学院教授の発想から学生と店主が中心となり行政、地域市民を巻き込んでのプロジェクトにより、学生中心の経営で10年目を迎えている街づくりのパイオニアです。

教室では縁のない「街づくり」「地域と密着」などになぜ学生たちが「はまっている」のか。昨今、学生の経営による居酒屋、カフェなどが静かなブームになって、在学のまま起業し継続しているケースもみられます。

カフェ「ここの」の経営は将来に役立つことにも起因はありますが、地域や行政の人との関わりが背中を押し学生達の心に火をつけたようです。



カフェは団地の一角に地元野菜や酒店、リサイクルショップ、まちかどホールなどが並ぶ商店街「むっさ21」の中にあります。4人テーブル6卓、6人テーブル1卓、厨房、学生は交代で担当しパートタイムの女性が交代で運営しています。



長野県の朝日村の協力でカラマツの間伐材を無償で提供を受け、間接照明で来店者がゆっくり楽しめる落ち着いた雰囲気のカフェです。

(NPO アクションおっぱま理事 河村啓子)

## ルネ追浜フリスムクラブの オープニングイベントと写真展

フリスムクラブはルネ追浜管理組合の組織であり、共用部の活用と親睦を深める目的をもって活動しているクラブです。入居者全員がフリスムクラブの会員となります。今年5月、懸案だった会が正式に立ち上がったのを機に、関係機関と会員にオープニングイベントを行い広く知ってもらう為の企画でした。

NPO アクションおっぱまをはじめ、大長さん、追浜はっけん倶楽部、総合地所、総合ハウジングサービスの協力で実施することが出来ました。

写真展は、8月29日(土)、30日(日)の2日間開催しました。はっけん倶楽部やNPOの方々の丁寧なマンツーマン方式での説明で、満足度100%。成人だけの参加者は、写真展が目的で参加しています。私はルネの工事前の山容写真と完成後の同じアングルで撮影した写真に感心しました。

大長さんのスライドを使った、「おっぱまぶらり散歩」は2日目だった為か、参加者が少なくとても残念でした。地域をワンポイントで知ることが出来る興味あるお話と、きれいなスライドでしたのに。

ルネの住民にとっては、写真展や講演会は追浜を知るキッカケとなり、その先の地域の関心へと繋がると思います。

(NPO アクションおっぱま理事 高杉和枝)



## こども食堂@気まぐれ八百屋 だんだん (東京都大田区蓮沼)



こども食堂は  
毎週木曜日 17:30 ~ 20:00



その他、寺小屋、手話教室など様々なイベントが開催されている。毎月第1日曜日には朝市と不定期でだんだん寄席。



店主の近藤さん(左)は歯科衛生士。子どもに口の中から食の大切さを感じてだんだんを開店し、こども食堂を主宰する。現在全国のこども食堂が連携するネットワークを拡げている。



メニューは和食が多い。良く噛んで食べる野菜中心、ボリューム満点。  
(正会員 (株)アロマインデリア代表 菊地真紀子)

## ●ら・ぶ・いん おっぱま●

### 追浜2丁目平和会 会長

当町内は、10年前より空き家が増加しています。原因は住民の高齢化、老人ホームや子供の家に転居などですが、当町内が谷戸地区にあるため道幅が狭く自動車が利用できない、駐車場が無いなど、子供達は、親の家には戻ってこない傾向にある町内です。

空き家対策の一環として、数年前から関東学院大学・人間環境デザイン学科に、空き家利用について検討してもらっていました。

昨年、一軒の空き家をシェアハウスに改築して、学生が住むようになりました。学生たちは数年前に検討していた時期から、町内活動にも積極的に協力してくれ、現在も、夏は祭礼のお神輿渡御や、盆踊り、年末のお餅搗きなど各行事に積極的に協力していただいております。

町内会役員が高齢化している現在、若い学生達も（卒業生も含め）協力してくれていることは、各町内活動の大きな原動力となっており、大いに感謝しております。

斉藤 博(賛助会員団体 追浜2丁目平和会会長)

## NEWS

三海堡遺構の東京スポーツ新聞の取材がありました。



(中京スポーツ 平成27年10月28日号)

追浜あんず通信 10号 2015年10月発行

発行 特定非営利活動法人アクションおっぱま  
 発行人 昌子住江  
 編集 NPO 法人アクションおっぱま  
 編集委員会

## ●NPO 法人アクションおっぱまの活動に参加しませんか

ボランティアをしたい人、社会起業したい人は是非アクションおっぱまに声をかけて下さい。

一緒に追浜のまちを楽しいまちにしていきたいませんか？

- 追浜のまちの歴史を勉強してそれを人に知らせていきたい
  - ワイン作りを手伝いたい
  - 子育て支援をやってみたい
  - コンサート等を企画してみたい
  - 情報紙を作りたい
- 等々

楽しく活動していきたいと思います。

連絡先 046-866-2790

(NPO アクションおっぱま理事 吉田洋子)

### ● NPO アクションおっぱま事務所 移転のお知らせ

2015年7月より下記事務所へ移転しました。

電話・メールは変更ありません。

新住所

横須賀市追浜町 3-39 創楽舎内

電話：046-865-2625

<http://www.action-oppama.org>

### 編集後記

- 今回の号はNPOの具体的な活動をお届けすることが出来ました。活動の情報は今後も発信していきます。いつかカラー印刷に…。(河村啓子)
- ここところ気候の変化が激しく体調を崩しやすい毎日です。皆様も体調にはくれぐれもお気を付けください。追浜においても若い学生たちが動き出しています。私たちはできるだけ若者支援という立場でまちが明るくなる方向に進めていきたいです。皆様も是非よろしく!!(吉田洋子)
- 関東学院大学人間環境学部の学生による「空き家プロジェクト」には、現在1~4年生まで20人以上が参加しています。追浜に関心を持つ学生がこんなにいるということ、そのパワーをもっと生かしたいですね。(昌子住江)
- 秋空に編集終えて安堵する (内野忠治)
- 老若男女、多様な人たちが多様な形で関わることでまちに彩りができますね。(菊地真紀子)